

## 令和6年度自己評価シート(中間評価)

校番	202 127	学校名	広島観智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋 一彦	全・定・通	困・分
----	------------	-----	----------------	------	-------	-------	-----

1(1)国際バカロレア教育(IBプログラム)を教育活動の主たるツールとし、探究ベースの深い学びを展開することにより、本校の教育目標の達成を目指す。

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげ、主体的に学び続ける生徒を育成する。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 生徒が国際バカロレア学習の方法(ATL)を用いて、自身の学びを方向付けたり調整したりして学習活動に取り組むことができるよう、教師は国際バカロレア指導のアプローチ(ATT)を用いて、学習者中心の学びを展開する。 ○ 自己のアイデンティティの形成や自己や他者のウェルビーイングに向けて、社会奉仕活動(SA や CAS)を充実させる。 ○ 外部リソース(人材や教材)を活用し、生徒の多角的な視点や主体性の涵養を図るプログラムを提供する。	評価  B

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 生徒全員が国際バカロレアフルディプロマの取得を目指し、6年間の系統的な学びを実現し、MYP と DP の一層の接続を図る。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 教師は、相互授業参観や校内研修・教科会等において、指導方法や評価についての研究・研修を行い、組織的・計画的に教科指導力を向上させる。 ○ IB 校としてのこれまでの成果と課題を整理し、到達目標に即した指導と評価の改善・充実を図る。	評価  B

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 本校の特色あるカリキュラムで6年間学び、日本語でも英語でも議論・協働できる高い語学力を育成する。また、高等学校から入学する留学生等の日本語習得を目指した指導体制を確立する。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 6年間の進路指導と CEFR を指標とした各学年で達成すべき英語能力基準を設け、英語科を中心に生徒の英語能力の向上を目指す。 ○ 生徒の学年や英語力に応じた、学校外の語学研修プログラムを提供する。 ○ 生徒の日本語能力の違いに応じて、漢字検定の受検や日本語能力試験の受検に向け、学校全体でサポートする。	評価  A

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 生徒がこれまでの学びや活動、その成果やそこに至るまでのプロセス、今後の展望を語ることができ、希望する進路を実現できる支援体制を整備する。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ プログラムやコンテストの情報を定期的に発信し、生徒が果敢に挑戦することができる風土を醸成する。 ○ 生徒が思い描く将来の目標を実現できるよう、個に応じたきめ細やかな進路面談を行う。 ○ 国内外の大学の情報を発信するとともに、生徒の進路希望に応じた大学訪問プログラムを開発する。	評価  B

1(2)中間評価のまとめ

評価結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MYP チームとDP チームを軸とした各教科でのIB 推進を図ることができた。また、国内IB 校との情報交換や学校視察の受け入れを通して、本校の目指すべきIB 校としての方向性を考え続けることができた。</li> <li>○ 探究ベースの学びを校内でより活性化していくために、MYP の学際的な単元(教科横断型授業)の見直しを図っている。日々の授業実践が学校全体のIB 推進にどう貢献しているのか、見通しをもって指針を示す必要がある。</li> <li>○ 社会奉仕活動(SA や CAS)の充実に向け、本校の理念と関連させた地域のあるいはグローバルな視野で捉えた生徒主体の活動がさらに増えていくと良い。</li> <li>○ 高校生の英語能力の現状を分析し、中学校段階で必要となる英語能力の基盤を鍛えている。CEFR レベルを引き上げるために、持続的な授業指導改善を行い、生徒がより高度の語彙力・文法能力を目指せるように指導している。</li> <li>○ フィリピン、フィジー、ウェールズなどの海外プログラムを実施した結果、該当の生徒の英語へのモチベーションにつながり、特にスピーキングの向上が見られている。</li> <li>○ 留学生一人一人の日本語能力に合う指導(授業外の個別指導や生徒同士の教え合いも含め)と検定に向けてサポートを提供している。</li> <li>○ 1期生の学習状況を踏まえ、英語検定試験や課外活動の重要性を発信できている。それに応じて、各プログラムやIELTSに積極的に挑戦する生徒が増えている。また、ICT 機器の工夫により、進路面談を柔軟に行う体制づくりが進んでいるが、教科学習の多忙さ等により面談が十分に実施できていない生徒もいる。</li> </ul>
---------	---

今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個々の教員が各自取り組める部分で、既存の概念にとらわれず主体的に単元計画を見直し授業改善を行い、日本の学習指導要領とIB プログラムを融合させた指導と学習を更に充実させ、IB プログラムの更なる発展を目指す。</li> <li>○ 高校生がDPに取り組んでいる中でIELTSを目指している生徒がいるため、DPの学習内容とIELTSの英作文課題および評価基準を結びつけ、学習効率を高める。また、文法の正確性に課題がある生徒へのサポートとして、授業内での指導と復習を取り入れることで正確性の向上を目指す。</li> <li>○ 中学生に向けて海外の生徒とオンライン交流会を授業活動として提供する計画が進んでいる。また、中期海外留学プログラムの成果を測り、効果的な方法を進める。</li> <li>○ これから日本語能力試験や漢字検定を体験させ、生徒の意欲を高め、さらに日本語能力を向上させる。</li> <li>○ 引き続き1期生の状況を踏まえた情報発信を適宜行い、自らの進路実現につながる経験を得るために果敢に挑戦する風土を醸成する。加えて、LHR等を積極的に活用してガイダンスを行うことで、先を見通した行動を生徒が取れるような支援体制を整備する。</li> </ul>
学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語と日本語能力の育成に係り、具体的な取組を可視化するとともに、ケンブリッジ英検や日本語検定能力試験等の客観的な指標も用いて中間評価を行い、指導の工夫改善に生かす。</li> <li>○ 海外プログラムに参加した生徒の変化(モチベーションや英語力等)の変化が分かるように、生徒対象アンケートの質問項目を追加する。</li> </ul>

2(1)学校生活・寮生活でのあらゆる場面において、多種多様な人とのコミュニケーション活動等を通し、将来のリーダーとしての人格の陶冶に努める。

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 学校生活・寮生活を通し、心と身体の健康のために自己管理・自律的行動ができる生徒を育成する。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 6年間のライフイベントに基づき、基本的な生活習慣の確立に取り組ませる。	評価 B

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 自治的活動を通し、生徒が自らリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、所属感・連帯感を深めることのできる集団を育成する。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 生徒会活動や寮の活動において、生徒それぞれが責任を持ち、見通しを持って、与えられた役割を果たせるよう、指導・支援を行う。	評価 B

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 本校の生徒・教職員が「IBの学習者像」を指針とした行動を取ることが出来る。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 行動指針・指導指針として「IBの学習者像」を活用し、生徒・教職員ともに意識醸成を図る。	評価 B

<b>【短期(本年度)経営目標】</b> 日常の食事に対して興味関心を高めることで、生徒自身が自己の健康を意識するとともに、望ましい食生活の習慣の形成を獲得し、実践しようとする力を育む。	
<b>【本年度行動計画】</b> ○ 給食指導、食育指導を通して、健やかな心と体を育むための食に対する知識の習得と意識の向上を図る。 ○ 生徒の主体的な活動をもとに、食に関する啓発活動を実施する。	評価 B

2 (2)中間評価のまとめ

<p>評価結果の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 90%の生徒が集団生活におけるルールやマナーの目的を理解して実践することができていると認識し、また、76%の生徒が寮の居室を心の貯金活動の時間以外にも定期的に清掃し、整理整頓することができている。</li> <li>○ 生徒会活動では78%の生徒が、そして寮生活では85%の生徒が自分の役割に責任を持って取り組むことができると認識している。学校生活や学校行事において、88%の生徒が他者とのコミュニケーションをとりながら充実した学校生活を送ることができている。</li> <li>○ 生徒に実施した、「IBの学習者像」を指針とした行動をとることができているか」というアンケート(4段階評価)では、平均3.2という結果であったが、教員の立場から見たとき生徒の現行こはまた課題が残る点もある。</li> <li>○ 生徒の85%は、食事マナーを考えながら食事ができ、行事食や諸外国の料理などへの興味関心があると認識している。また、食品ロスに対する興味関心度は高い一方で、現状として残食が多いことは課題である。</li> </ul>
<p>今後の改善方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒間での話し合いを通じて、寮則の目的や理解度を高めるとともによりよいものを目指した改訂を行う。寮内で更なる自主的な居室の清掃や整理整頓ができる仕組みを再構築する。</li> <li>○ 生徒会委員会活動の内容を精選・整理する。寮では、異学年、異校種の仲間との交流機会を生徒が企画し実行できる仕組み作りを行う。</li> <li>○ 学習者像デザインと生徒指導規程の改定を関連付け、よりよい学校・集団・環境をつくりだすための契機とする。</li> <li>○ 献立を生きた教材として活用することで、生徒の食に対する知識の習得と意識の向上と、健やかな身体づくり、食への感謝の気持ちを育むきっかけ作りを行う。</li> </ul>
<p>学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ IBの学習者像に関する教師と生徒の評価がどのくらいずれているのかを精査し、「課題が残る」のは具体的にどのような点なのかを教員間で(生徒とも)共通理解し、課題解決に向けた取組を行う。</li> <li>○ 寮では、異学年、異校種の仲間との交流機会に加えて、外国人留学生を含む多様性を生かしたイベントを生徒が企画し実行できる仕組み作りを行うことで、寮のアクティビティをさらに充実する。</li> </ul>

3(1)働き方改革に関する短期(本年度)目標

<p>1 短期(本年度)経営目標</p> <p>【短期(本年度)経営目標】 教員が、子供と向き合う時間が確保されていると感じることができている。</p>	
<p>【本年度行動計画】 子供と向き合う時間を確保するための方策について、各分掌や学年の会議で検討し、職員会議で定期的に共有する。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>

<p>【短期(本年度)経営目標】 教職員全員が勤務時間に対して高い意識を持ち、時間外における勤務を縮減している。</p>	
<p>【本年度行動計画】 働き方改革を意識した業務遂行ができるよう、業務分担・進捗状況について、定期的に点検・見直しをする。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>

3 (2) 中間評価のまとめ

<p>評価結果の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校衛生委員会では、在校時間の縮減に向けて意識統一を図るとともに、時間外勤務の実態を可視化している。</li> <li>○ 勤務時間について、個々の教職員がタイムマネジメントを意識できるよう、月初めに個人の勤務時間表を提示し、職員朝礼等で確認を呼びかけるようにしたこと、一月当たりの時間外勤務時間が45時間超えの教職員の数が減少している。</li> <li>○ 年次休暇の年間取得目標を10日間以上とし、年休の計画的な取得を呼び掛けている。</li> </ul>
<p>今後の改善方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年次有給休暇の計画的な取得や帰宅時間の目標設定等について、日頃からの呼びかけを継続するとともに、分掌や学年内での研修実施時にはタイムリーなフィードバックを行う。</li> <li>○ 各分掌の業務分担や進捗状況について今年度の課題を明確にし、来年度に向けて、働き方改革に資するよう機動的な校務分掌となるように見直しを図る。</li> </ul>
<p>学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上記の「今後の改善方針」を着実に実行する。</li> </ul>